

# 2023 年度 国際交流プログラム活動報告書



# 目次

国際交流プログラム報告書の発行にあたって	2
国際交流プログラムについて	3
1. 海外語学研修プログラム	4
2. 文化体験プログラム	7
3. 国際 PBL プログラム	9
4. IAESTE 海外インターンシップ派遣・受入	15
5. 海外研究支援プログラム	16
6. 長期交換留学（派遣）	18
学部・学科独自プログラム	19
交換留学生受入	21
留学生との交流	22
海外交流協締結機関一覧	23
グローバル学習支援、国際交流センター・LLC	26

表紙の写真は国際交流センターのInstagramからです。  
ぜひフォローして活動の様子をリアルタイムでご覧ください。



Instagram @oit.kokusai





## 国際交流プログラム報告書の発行にあたって

2023年度は、大阪工業大学のすべての国際交流プログラムにおいて、コロナ禍以前と同様、実際に現地へ行く「派遣」および海外の学生を本学に受け入れて行う「受入」のプログラムを実施することができました。学部や学科が独自で実施したプログラム、オンラインや学内での交流イベントも含めると、のべ639人の本学学生が「派遣」または「受入」プログラムに参加しました。

コロナ禍で社会も大きな変動があり、国際交流の形態も新しくなってはいますが、やはり直接現地に行ったり留学生と交流したりして異なる文化や価値観に触れ、視野を広げることは何事にも代えがたい経験になることは言うまでもありません。多くのみなさんが留学プログラムに積極的に参加し、将来グローバル社会で活躍できる人材へと成長することを心から願っています。

2024年4月末日

# 国際交流プログラムについて

## About OIT International Exchange Programs

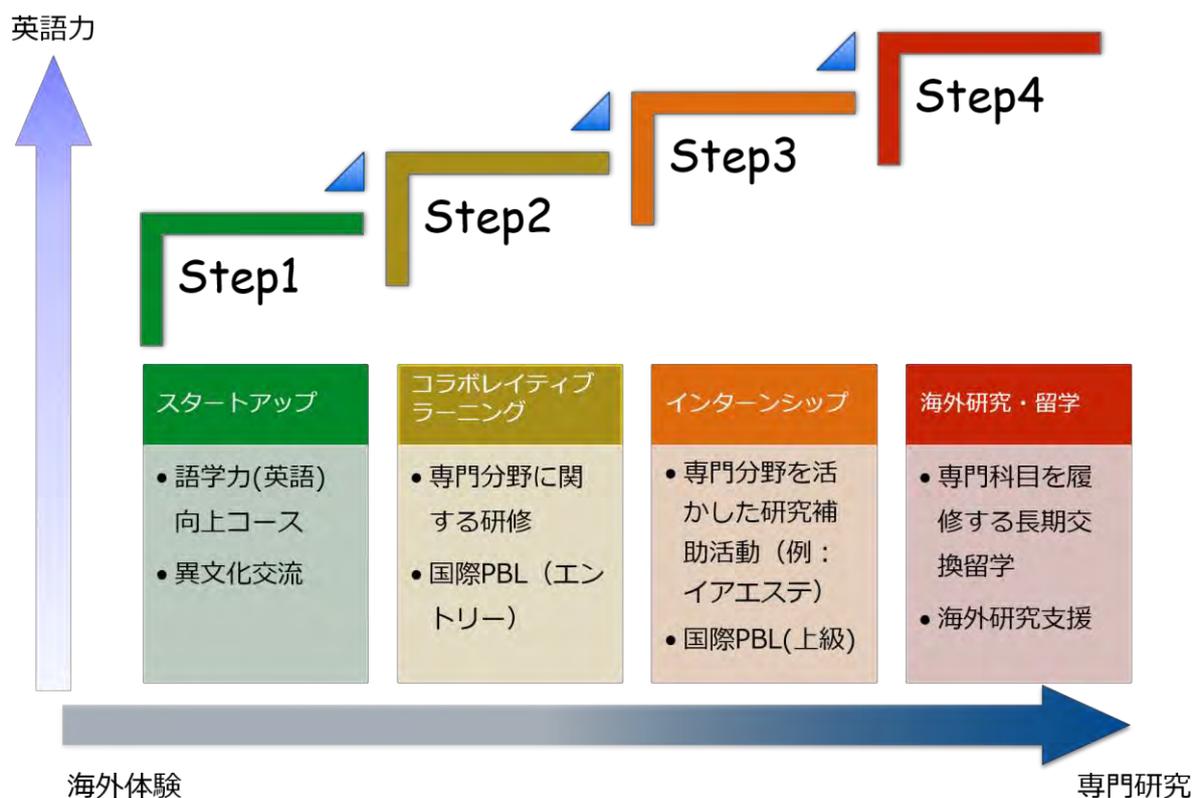
現代社会では、企業の生産拠点の海外移転、市場のボーダーレス化などにより、あらゆる活動に「グローバル化」が浸透してきています。本学における人材育成においても「グローバル化」への対応を最重要課題ととらえています。理系を中心とする本学としては、次の3点を「グローバル人材育成」のゴールとしています。

- ◆ 教育プログラム拡充と研究交流の相乗効果で持続発展性のある国際連携を推進する
- ◆ 多様な文化が共生できるキャンパス環境を構築し、学生・教職員の意識向上をはかる
- ◆ グローバル展開から得られた成果を積極的に地域・国際社会に還元する

上記の目標を達成するために、本学では次の点を重視して、さまざまな海外派遣プログラムを提供しています。

- 「グローバル社会」に対する入学時からの意識づけ
- 学年の進行に応じて段階的に高度化するプログラムを提供すること
- 海外の学生たちとの協働の実体験を通じた学びを取り入れること

### 国際交流・連携プログラム イメージチャート



# STEP 1

## 1. 語学研修プログラム Language Training Program

国際交流センターでは、夏期や春期の休暇期間中に、海外の語学学校や協定校などの協力を得て英語圏での語学研修プログラムを実施しています。

2023年2月から渡航型の語学研修を再開しましたが、オンライン型にも費用面や自分の時間を有効活用できる面などメリットがあることから、オンラインでの語学研修も引き続き提供しています。

### 2023年度 語学研修プログラム（オンラインまたは海外渡航）

国（都市名）	フィリピン（セブ）		カナダ（バンクーバー）
機関種別	語学学校		語学学校
機関名	GLC(Global Language Cebu)		CCEL(Canadian College of English Language)
実施形態	オンライン	海外渡航	海外渡航
内容	英語研修		英語研修
授業形態	マンツーマンレッスン	マンツーマンレッスンとグループレッスン	グループレッスン 1クラス平均12人
宿泊先	-	語学学校寮（授業と同建物）	ホームステイ
単位認定	あり（2単位）※ただし一定の条件を満たすこと		
夏実施	2023年8月20日～9月16日のうち1～4週間		2023年8月13日～9月11日（4週間）
参加人数	4人	13人	3人
春実施	2024年2月5日～3月15日のうち3週間または4週間		2024年2月18日～3月18日のうち2週間または4週間
参加人数	4人	5人	3人

### 2023年度 海外大学提供プログラム（海外渡航）

国（都市名）	アメリカ（サンフランシスコ）	イギリス（オックスフォード）
機関種別	協定大学	大学
機関名	サンフランシスコ州立大学	オックスフォード大学インターナショナルスクール
内容	英語研修と文化体験	英語研修とPBL型学習
授業形態	グループレッスン	グループレッスンとオンラインマンツーマン（ハイブリッド型）
宿泊先	ホテル	ホームステイまたは大学寮
単位認定	あり（2単位）※ただし2週間プログラムは対象外。また一定の条件を満たすこと	
夏実施	2023年8月14日～9月8日のうち2～4週間	2023年8月6日～9月2日（2週間）
参加人数	4人	1人
春実施	2024年2月19日～3月15日のうち2～4週間	2024年2月11日～3月2日（3週間）
参加人数	2人	1人

## 海外渡航型：語学研修プログラム

### フィリピン

**開催期間** 2023年8～9月のうち1～4週間  
2024年2～3月のうち3または4週間

**参加学生数** 18人  
内訳：夏13人、春5人

**派遣先** GLC(Global Language Cebu)

フィリピン・セブ島にある語学学校GLCでは、フレンドリーな先生とマンツーマンとグループレッスンで集中的に英語を学びました。寮では留学生とルームメイトになり、授業外でも英語を使って交流しました。週末は様々なアクティビティに参加し、メリハリのある留学生活を送ることができました。



### カナダ

**開催期間** 2023年8～9月の4週間  
2024年2～3月のうち2または4週間

**参加学生数** 6人  
内訳：夏3人、春3人

**派遣先** CCEL(Canadian College of English Language)

カナダ・バンクーバーにある語学学校CCELでは、グループレッスンで集中的に英語を学びました。多国籍な学生が在籍していたので、日本ではできない異文化交流ができました。また滞在方法はホームステイだったので、学校外でも英語や異文化について理解を深めました。



全学部学科

## オンライン語学研修プログラム

### フィリピン

**開催期間** 2023年8～9月のうち1～4週間  
2024年2～3月のうち3または4週間

**海外相手先** GLC(Global Language Cebu)

**参加学生数** 8人（内訳：夏4人、春4人）



主に講師とのマンツーマンレッスンで英語を集中的に学びました。オンライン語学研修は費用を抑えられることや、海外留学の経験がない人たちにとって派遣前のステップとしてもお勧めです。

全学部学科

## 海外大学主催プログラム

### アメリカ

**開催期間** 2023年8～9月のうち3～4週間  
2024年2～3月のうち3～4週間

**派遣先** サンフランシスコ州立大学

**参加学生数** 6人（内訳：夏4人、春2人）



海外協定校が提供する語学研修と文化体験のプログラムです。大学での英語授業だけでなく、サンフランシスコのカラフルで多様な地域を探索しながら、英語力を身につけました。また、サンフランシスコ・ベイエリアの芸術、ビジネス文化、テクノロジーについて学びました。

### イギリス

**開催期間** 2023年8～9月のうち2週間  
2024年2～3月のうち3週間

**派遣先** オックスフォード大学  
インターナショナルスクール

**参加学生数** 2人（内訳：夏1人、春1人）



ヨーロッパ、アジア、南米、中東からの学生が参加する国際的なクラスで、英語4技能を習得。加えて、気候変動、ジャーナリズム、LGBTQ+、人種、SDGs、多様性等々、グローバル社会における様々な問題について活発に話し合いました。夕方は1対1の個別オンライン授業で会話力を磨きました。

## 韓国文化体験プログラム

全学部学科

開催期間 2023年8月10日～8月29日（20日間）

派遣先 大田大学校（韓国）

参加学生数 本学5人、摂南大学9人、常翔啓光高校6人、大田大14人

初級韓国語の授業、文化施設見学、K-POPダンスレッスン、フィールドトリップ（ソウル、プサン）等の活動を通して韓国の文化や歴史を学びました。現地の学生との交流機会が多かったこともあり、帰国後、本学参加者2人が2024年度長期交換留学（1年間）で大田大学校に留学しています。



## 台湾文化&PBL体験プログラム

全学部学科

開催期間 2023年8月4日～8月9日（6日間）

派遣先 国立台湾科技大学（台湾）

参加学生数 本学10人、芝浦工業大学5人、国立台湾科技大学19人、ウィドヤ・マンダラ・カトリック大学スラバヤ（インドネシア）2人、スラバヤ工科大学（インドネシア）2人、ガジャマダ大学（インドネシア）1人

PBLのテーマは「Net Zero Carbon Reduction Technology」。「カーボンゼロミッション」を達成するためにどのようなアプローチが可能か、日本、台湾、インドネシアの混成各チームが協働により、プレゼンテーション動画を作成し、成果発表しました。期間中は、台湾電力展示館や野柳地質公園、平溪老街、国立故宮博物院などの文化体験もあり、参加学生同士の親ほくを深めました。



## インドネシア国際共同文化体験

全学部学科

開催期間 2024年2月25日～3月3日（8日間）

派遣先 ウィドヤ・マンダラ・カトリック大学スラバヤ（インドネシア）

参加学生数 本学3人、芝浦工業大学14人、国立台湾科技大学2人、ウィドヤマンダラ28人、インドネシアの高校生18人

本学の院生および学部生の3人が参加し、プログラムではwaste oilを使ったアロマキャンドルとハンドソープ製造を行い、その他にもインドネシア語の授業受講や現地の繊維工場や茶畑およびサブマリンミュージアムの見学など、さまざまな側面から文化を体験しました。参加学生たちにとって貴重な時間となり、今後の学生生活にも大きな影響を与えてくれそうです。



# STEP 2 & 3

## 3. 国際 PBL プログラム International PBL Program (Hands-on Engineering Program)

学部2～3年生を主な対象として、海外の大学を活動の拠点に1週間程度の期間でPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）を実施するプログラムです。英語を使用言語として、海外の学生と混成チームを作り、それぞれの学生の専門性を発揮しながら、1週間程度、共通の課題に取り組むことで、学生の多様な能力を引き上げます。プログラムの内容によって、国際交流・連携プログラムのStep2（国際PBLエントリー）、Step3（国際PBL上級）に分類されます。

2023年度は実施した全プログラムにおいて、オンラインではなく派遣または受入で行いました。

### ◆ 国際PBLの概要

#### プログラムの特長

PBLは、与えられた課題を制限された条件下で取り組むことで、学生の多様な能力を引き出します。その国際版は、グローバルな交流を通じて、PBLの達成感とダイバーシティ（多様性）を感じてもらうことが狙い입니다。



#### 国際PBLを行う意義



日本人とは異なる価値観を持った人たちと協働で作業に取り組むことで、予想外の多岐にわたるアイデアが生まれます。PBLのプロセスはイノベーションそのものなのです。本学では今後さらにグローバル化が進展する将来を想定して、異なる価値観を持つ海外学生とのPBLが有効と判断し、2013年度から本プログラムを開始しました。社会が求めるグローバル人材育成の目的の一つは「課題解決力」であり、本学が実施している国際PBLはまさにこの趣旨に合致するものです。

本学では2020年度からSDGs（エスディージーズ/持続可能な開発目標）を共通テーマとして設定し課題に取り組んでいます。

工学部

C

派遣

テーマ

柱部材の耐震設計・製作

開催期間

2023年8月25日～31日（7日間）

派遣先

国立台湾科技大学（台湾）

参加学生数

本学10人、台湾科技大10人



両大学の学生が混合チームを作成し、共同で指定された材料のみを用い、橋脚のような上部に質量が集中する柱部材モデルの耐震設計・製作を行い、その耐震性を振動実験により確認しました。今年度のプログラムの内容は、はじめて取り組むものでしたが、加振方向の剛性の強化や摩擦力を期待したダンパーを取り入れたモデルの製作に挑戦するチームもみられ、両大学の学生が積極的にコミュニケーションを取り、作業分担をしながら自分の役割を果たすことができました。

工学部

M

受入

テーマ

風レンズ付き風車の設計・製作

開催期間

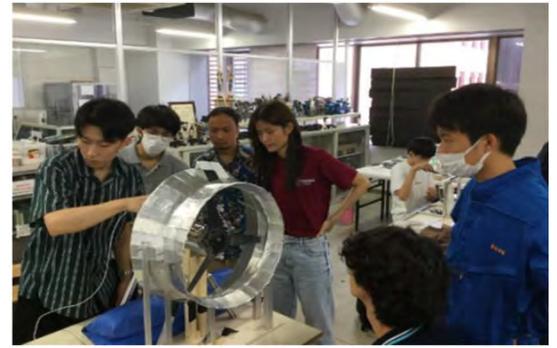
2023年8月28日～9月3日（7日間）

参加機関

国立台湾科技大学（台湾）、カントー大学（ベトナム）、チェンマイ大学（タイ）

参加学生数

本学23人、台湾科技大学12人、カントー大学3人、チェンマイ大学2人



「風レンズ付き風車の設計・製作」をテーマに、台湾科技大学、カントー大学およびチェンマイ大学を招いて国際PBLを実施しました。期間中は異なる国の学生が混合されたチームで、風レンズ付き風車の設計と製作に取り組み、風車の発電効率や振動などの性能を評価しました。多角的な視点から奇想天外な発想が次々と生まれ、日ごろの授業などとは異なった刺激を経験することができました。

工学部

E

D

派遣

テーマ

Smart Vertical Farming Challenge 2023, Cebu

開催期間

2023年8月20日～26日（7日間）

派遣先

サンホセコレトス大学（フィリピン）

参加機関

南台科技大学（台湾）

参加学生数

本学10人、南台科技大10人、サンホセ大15人



E D科の学生対象の国際PBLを、本学の協定校である南台科技大学も参加し、サンホセコレトス大学で開催しました。本学と南台科技大学は2人ずつ、サンホセコレトス大学は3人を1グループとして、特殊な言語でのプログラミングがメインで難しい部分はありましたが、学生たちは最後まで頑張って取り組んでくれました。

※学科記号について

C：都市デザイン工学科、M：機械工学科、E：電気電子システム工学科、D：電子情報システム工学科

工学部 D E 派遣

テーマ Intelligent vehicle challenge 2023

開催期間 2023年8月8日～8月17日（10日間）

派遣先 国立台北科技大学（台湾）

参加機関 新北市立中和高級中学（台湾）、ホーチミン大学（ベトナム）、FPT大学（ベトナム）、カリフォルニア大学リバーサイド校（アメリカ）、カリフォルニア・ポリテクニク州立大学ポモナ校（アメリカ）、タマサート大学（タイ）

参加学生数 本学12人、台北科技大24人、九州工大10人、東北大4人、タマサート大5人、その他海外校24人



本学と台北科技大学以外にも複数国の大学や高校から多くの参加者があり、非常にレベルの高いプログラムを開催することができました。ベトナムやタイ、アメリカの学生などの語学力は台湾以上で、日本人学生、とくに本学の学生にとってはプログラム活動と同等以上に刺激になったと思います。

工学部 K 派遣

テーマ コンデンサーの合成と機能評価

開催期間 2023年8月5日～8月11日（7日間）

派遣先 タマサート大学理工学部（タイ）

参加学生数 本学8人、タマサート大学10人



プログラム期間中は、両大学学生の混合チームでプログラムテーマである「スーパーキャパシター作り」に取り組みました。学生たちはキャパシター性能を競い、さらに実験結果を英語で発表しました。参加学生全体の評価によれば、プログラムに対する満足度は最高評価の5.0で、プロジェクトが綿密に計画されていたと評価されました。プロジェクトを通じてテーマへの関心が高まり、技術力やコミュニケーション能力向上に寄与したとの声もありました。

工学部 U 派遣 受入

テーマ 生命工学分野の国際ジョイントPBL 

開催期間 【渡航】2023年8月6日～8月12日（7日間）

【受入】2023年8月27日～9月2日（7日間）

海外相手先 大同大学（台湾）

参加学生数 本学15人、大同大学15人



大同大学と本学を行き来する形でプログラムを行いました。まず本学の学生が渡航した時に互いが顔合わせしていたため、大同大学を受け入れた際は再会を喜びました。プログラムは両大学の学生が混合で5班に分かれ、それぞれ異なるテーマが与えられ、受入側の大学生が指導する形で実験に取り組み最後に英語でプレゼンテーションを行いました。最後は各テーマを定めた教員たちが想定していたレベルに到達することができました。※受入プログラムは、JSTさくらサイエンスプログラムの支援を受けて実施しました。

テーマ名に  のアイコンがあるプログラムは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）さくらサイエンスプログラムの採択プログラムです。他も同じ

※学科記号について

E：電気電子システム工学科、D：電子情報システム工学科、K：応用化学科、U：生命工学科

ホ ティクス&デ ザ イン工学部

派遣

受入

テーマ

アジアの人々の健康な生活と幸福に資することを  
目的としたデザイン思考に基づく国際PBL 

開催期間

【受入】2023年7月11日～7月15日（5日間）

【派遣】2023年7月17日～7月23日（7日間）

海外相手先

タマサート大学シリントーン国際工学部（タイ）  
サバ大学（マレーシア）

参加学生数

本学12人、タマサート大学8人、サバ大学4人



アジアにおける社会の課題をテーマとしてタイ・マレーシアの学生と国それぞれでの課題抽出とその解決方法の提案までを、本学12人、タイ・タマサート大学10人、マレーシア・サバ大学4人で連携して2週間で実施しました。構成された4つの班は「ゴミのリサイクル」「セルフメディケーション」「異文化の理解」「シェアライド」をテーマとして選択し、それを具体的な提案へ議論をすすめました。オンライン、対面を駆使して議論とプロトタイプ改良を進め、最終プレゼンを英語で作成し、両国の学生が協力して発表を行いました。

※受入プログラムは、JSTさくらサイエンスプログラムの支援を受けて実施しました。

ホ ティクス&デ ザ イン工学部

派遣

受入

テーマ

デザイン思考を取り入れた国際PBL

開催期間

【派遣】2023年7月3日～7月6日（4日間）

【受入】2023年7月11日～7月15日（5日間）

海外相手先

国立雲林科技大学（台湾）

参加学生数

本学10人、雲林科技大10人



台湾の雲林科技大学の学生と5人の混合グループを4つ作り、SDGsのゴール3（健康と福祉）に関するテーマとして、高齢者が抱える課題に対してデザイン思考のプロセスを通じて課題解決のアイデアを創出し、そのプロトタイプ作成を行いました。前半1週間は台湾で、後半の1週間は日本でワークショップを行いました。異なる母国語や文化を持つ学生たちが英語でコミュニケーションを取りながらお互い協力し、提案をまとめ上げて最終日に英語で報告会を行いました。企業見学や懇親会、グループワーク後の交流など、久々の対面での活動で、学生たちは友好関係を築きました。

情報科学部

派遣

テーマ

異文化メディアデザインプロジェクト

開催期間

2023年9月12日～9月16日（5日間）

派遣先

韓国芸術総合大学 K-Arts（韓国）

参加学生数

本学8人、K-Arts 10人



異なる国の異なる専攻分野を学ぶ学生同士がチームを組み、与えられたテーマ『生命の源「海」』についてどのようにデザインすればよいかを競い合うことを目的に開催しました。参加者たちの国境、言語、専攻の壁を越え、互いに議論をして一つの作品を作り上げるというプロセスは、大学の講義や演習では得られない貴重な体験であり、PBLの異文化交流にふさわしい内容となりました。

情報科学部

派遣

テーマ

画像処理プログラミング  
(画像認識アプリケーション開発)

開催期間

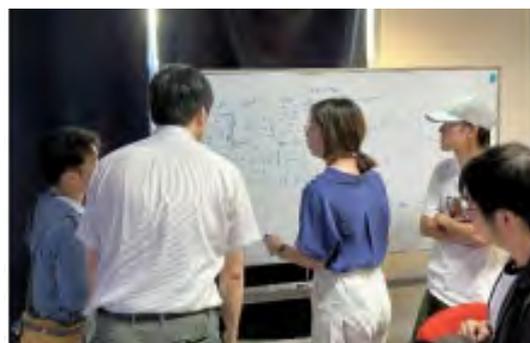
2023年8月27日～9月3日 (8日間)

派遣先

タマサート大学シリントーン国際工学部 SIIT (タイ)

参加学生数

本学10人、SIIT 15人



本プログラムでは、学習済のAIを用いた画像認識技術を用いて、社会に貢献できるオリジナルのアプリケーションをチームで協働して開発することを目的として、本学2人、タマサート大学3人の計5人を1チームとして実施しました。初日から高度な議論に発展しているチームも見受けられ、順調にプロジェクトが進み、最終日のプレゼンテーションでは各チームの成果を客観的に評価することで、自分たちの理解度の向上にも結び付けるよう取り組みました。

情報科学部

派遣

テーマ

国際ソーシャルイノベーションチャレンジ

開催期間

2023年8月17日～8月22日 (6日間)

派遣先

泰日工業大学 TNT (タイ)

参加学生数

本学7人、TNT 11人



学生自身が国際チーム内での協働により定められた目標を達成することおよび、SDGsの理解に加えて情報科学との関わりを考えることを目的として開催しました。1チーム本学1～2人、泰日工業大学2～3人を1グループとして、SDGsの基本内容を学び、対象とするテーマを決めました。そして、テーマをどのように実現するのかを議論し、まとめて発表するまでを行いました。本学の学生たちにとって、海外の学生と同じ目標に向けて議論や質疑応答を行うことは良い経験となり、プログラム以外の時間も有意義なものとなりました。

情報科学部

受入

テーマ

ドローンプログラミングチャレンジ

開催期間

2023年7月23日～7月29日 (7日間)

参加機関

タマサート大学シリントーン国際工学部 SIIT (タイ)

参加学生数

本学10人、SIIT 10人



タマサート大学シリントーン国際工学部の学生たちを本学に受け入れて国際PBLを開催しました。ドローンの基本的理論については、実機を用いながらミニ講義とデモで伝えました。プログラミングの開発を行うとともに模擬問題を作成して、ミニゲーム形式で楽しみながら理解度チェックを行いました。最終のコンペティションでは、チーム単位で戦略について発表を行い、その際、実際のドローンを使用して指定された地点への着陸を目指し、着陸時点で点数を競いました。プログラムはもちろん、それ以外の時間でも充実した時間を過ごすことができました。

情報科学部

受入

テーマ

問題解決型プロジェクト学習による  
ドローン制御のPythonプログラミング 

開催期間

2023年9月10日～9月16日（7日間）

参加機関

ジガンショール大学（セネガル）

参加学生数

本学7人、ジガンショール大学7人



アフリカ・セネガルのジガンショール大学の学生たちを遠路はるばる本学に迎えて国際PBLを実施しました。事前学習で身に付けた基礎知識や技術を活用し、ドローンの基本的理論を実機を用いて伝え、プログラミングの開発を行うとともに理解度チェックに模擬問題を作成しミニゲーム式で楽しく行いました。文化体験では茶道の体験や、京都国立博物館で日本文化に触れてもらうなど、双方の学生にとって有意義な時間を過ごすことができました。

※本プログラムは、JSTさくらサイエンスプログラムの支援を受けて実施しました。

国際交流センター

（学部横断型国際PBL）

受入

テーマ

伝統工芸技術から学ぶSDGs教育プログラム 

開催期間

2023年9月10日～9月16日（7日間）

参加機関

マレーシアサイエンス大学 USM（マレーシア）

参加学生数

本学8人、USM 9人



日本とマレーシアの学生が伝統工芸技術の歴史や技術、課題を学び、環境に配慮したSDGs達成への取り組みを学生それぞれの専門分野から提案しました。伝統工芸品や染料に関する講義や実験を行い、両国の伝統工芸品の歴史や課題について理解を深めた後、徳島県の藍染め工房を訪問しました。実際に藍染めを体験し、実験した化学反応を改めて理解することができました。その後、これまでの学びを振り返り、グループで成果発表のプレゼンテーションを行いました。

※本プログラムは、JSTさくらサイエンスプログラムの支援を受けて実施しました。

国際交流センター

（学部横断型国際PBL）

受入

テーマ

ものづくり技術体験から育む二国間交流の  
発展プログラム 

開催期間

2023年10月17日～10月23日（7日間）

参加機関

ウィドヤ・マンダラ・カトリック大学スラバヤ  
（インドネシア）

参加学生数

本学7人、ウィドヤマンダラ9人



環境に配慮し持続可能な社会を構築することが重要課題である両国学生が、技術大国日本でのものづくり技術やSDGs達成に向けた仕組みを学びました。今回は「界面活性剤と石鹸」をテーマに、講義や実験に取り組みました。具体的には、北九州市のシャボン玉石けん株式会社を見学後、固形石鹸づくりに取り組みました。実験を通して、合成界面活性剤やその他添加物の使用による環境への負荷や、廃棄物、排水等への影響について、議論し、ものづくりとSDGsの関連性について学びました。

※本プログラムは、JSTさくらサイエンスプログラムの支援を受けて実施しました。

国際交流センター  
(学部横断型国際PBL)

受入

テーマ

社会の要請にこたえるものづくり技術修得  
プログラム 

開催期間

2024年1月6日～1月12日 (7日間)

参加機関

モンゴルコーセン技術カレッジ (モンゴル)

参加学生数

本学8人、モンゴルコーセン9人



多岐にわたる専門分野の両国学生がSDGs達成に向けたものづくり技術を応用化学の見地から学びました。「化学の基礎」の講義を受講したほか、奈良県吉野町の製材所を訪れてスギやヒノキの廃材からアロマオイルを抽出する設備や割り箸工場を見学後、オガクズを分けていただいて本学の化学実験器具でアロマオイル蒸留実験と固形石鹸づくりを体験。全日程の研修から学んだ内容を振り返り、グループごとにディスカッションしながら成果をスライドにまとめ、発表しました。

※本プログラムは、JSTさくらサイエンスプログラムの支援を受けて実施しました。

国際交流センター  
(学部横断型国際PBL)

派遣

テーマ

Global Harmony:  
Sustainable Future, Cultural Roots

開催期間

2024年2月28日～3月6日 (8日間)

派遣先

マレーシアサイエンス大学 USM (マレーシア)

参加学生数

本学10人、USM 8人



「THE大学インパクトランキング2023」で世界4位、アジア1位を誇るSDGsの取り組み先進大学であるマレーシアサイエンス大学において、サステナビリティに関する講義やラボ体験、フィールドワークに取り組みました。また、多民族国家であるマレーシアの文化的・宗教的な要素が、様々な取り組みに色濃く反映されていることも重要な学びの一つとなりました。参加学生はそれぞれの専門分野においてサステナビリティをどう目指すかについて発表、議論を行いました。

## STEP 3

### 4. IAESTE 海外インターンシップ派遣・受入 Overseas Internship

IAESTE（イアエステ）とは、The International Association for the Exchange of Students for Technical Experience の略称で理工農薬学系学生のための海外インターンシップを仲介している国際 NGO 団体です。世界 80 カ国の企業または大学・研究所がインターンシップを提供していて、期間は最短 8 週間～最長 52 週間で、派遣先から生活費が支給されます。本学では意欲ある学生にイアエステへの応募を奨励し、渡航支援を行っています。またイアエステを通じて、海外から年間数名をインターンシップ生として、学内の研究室に受け入れています（夏の 2 カ月程度）。

2023 年度には、派遣者はいませんが、以下のインターンシップ生 1 人を受け入れました。

- 所 属：(アメリカ) パデュー大学 土木工学部 4 年
- 受入先：工学部都市デザイン工学科 防災水工学研究室（東 良慶 准教授）
- 期 間：2024 年 6 月～8 月（61 日間）

#### IAESTE インターンシップ生の派遣実績

年度	派遣先
2019	Universidade Estadual Paulista (ブラジル)
2017	Manipal Institute of Technology (インド)
2016	University of Information Science and Technology "St. Paul the Apostle" (北マケドニア)
2014	Karunya University (インド)

#### IAESTE インターンシップ生の受入実績

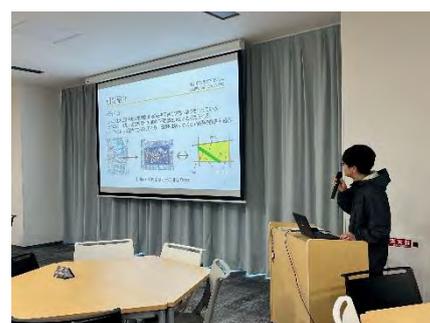
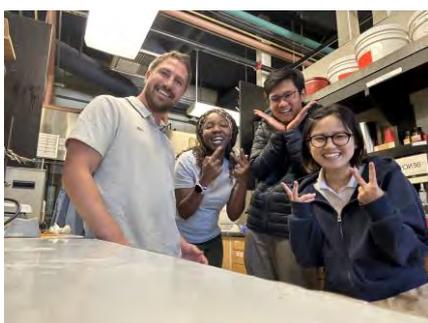
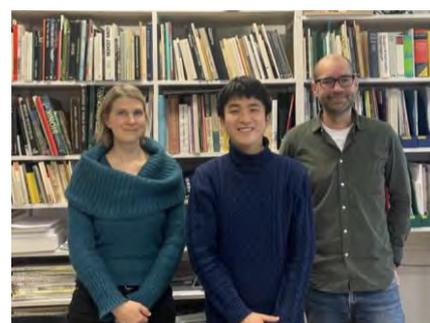
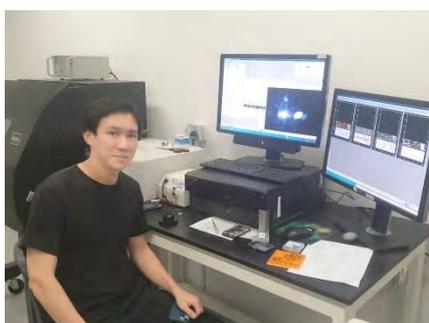
年度	所属大学
2023	Purdue University (アメリカ)
2022	Poznan University of Technology (ポーランド)
2019	Sultan Qaboos University (オマーン)
	University of Chemistry and Technology (チェコ)
2018	Slovak University of Technology (スロバキア)
	Technical University of Hamburg (ドイツ)
2017	Gdansk University of Technology (ポーランド)
	Lodz University of Technology (ポーランド)
2016	Brno University of Technology (チェコ)
	Budapest University of Technology and Economy (ハンガリー)
2015	Kwame Nkrumah University of Science and Technology, KNUST (ガーナ)
	Tomas Bata University in Zlin (チェコ)
2014	Norwegian University of Science and Technology (ノルウェー)

# STEP 4

## 5. 海外研究支援プログラム Overseas Research Experience Program

本学大学院に内部進学が決定している4年生（知的財産学部は早期進学の3年生を含む）と大学院（博士前期課程）を対象とし、海外の大学や研究機関等で1カ月以上の研究や実務の体験を行う学生に対し、必要経費の一定範囲を大学が支援しています。学生の派遣先は指導教員が選定し、学生と指導教員が共同でプログラムに申請することで、海外研究機関とのネットワーク構築を大学が後押しします。派遣先での活動は、卒業研究・修士論文研究との接続などの観点から評価され、大学での教育内容との連続性が重視されます。

2023年度は、アメリカ、オーストラリア、シンガポール、台湾など13カ国に16人の学生を派遣しました。内容については、別刷り冊子「2023年度海外研究支援プログラム レポート集」で参加学生たちの報告レポートを見ることができます。ぜひそちらも参照ください。



写真は「2023年度海外研究支援プログラム レポート集」から

2023年度 海外研究支援プログラム派遣者リスト

	留学先（国名）	所 属	研究テーマ	派遣期間
1	ネバダ大学 （アメリカ）	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 林 章世	分子スイッチング性能を有する機械 結合性不斉キラルロタキサンの合成	2023/8/9～ 2023/9/30 53 日間
2	ラジャマンガラ工科 大学タンヤプリ校 （タイ）	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 黒岩 和真	相変換材料を含む導電性 マイクロカプセルの作製	2023/12/18～ 2024/1/31 45 日間
3	国立陽明交通大学 （台湾）	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 矢尾板 朋也	遷移金属を触媒に用いた C-H 結合活性化に関する研究	2023/9/1～ 2023/10/2 32 日間
4	国立陽明交通大学 （台湾）	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 山岡 珠理	触媒的 C-H 活性化反応を利用した有 機電子材料の合成	2023/7/24～ 2023/8/28 36 日間
5	マードック大学 （オーストラリア）	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 橋本 昌也	石油を作る微細藻類 <i>Botryococcus braunii</i> を使ったバイオ燃料生産の 研究：藻類を生かしたままオイルを 回収するミルクング技術の開発	2023/8/1～ 2024/1/31 184 日間
6	ウィーン工科大学 （オーストリア）	工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 石田 大樹	19 世紀末のウィーンの都市計画家、 オイゲン・ファスベンダーにおける 計画の理論と実践に関する研究	2023/10/2～ 2024/1/10 101 日間
7	フランクフルト歴史 研究所（ドイツ）	工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 金子 昂平	日独土地地区画整理の比較研究	2023/9/24～ 2023/12/3 71 日間
8	パランカラヤ大学 （インドネシア）	工学部 環境工学科 小林 巧磨	人工衛星とドローンを活用したイン ドネシア中央カリマンタンにおける 泥炭地火災発生状況の調査	2023/11/20～ 2024/1/11 53 日間
9	シンガポール工科 デザイン大学 （シンガポール）	工学研究科 電気電子・機械工学専攻 三村 賢斗	2 次元材料と酸化膜の積層構造によ る電気特性の研究	2023/9/10～ 2024/1/31 144 日間
10	グラスゴー大学 （イギリス）	工学研究科 電気電子・機械工学専攻 瀧岡 稜	火星環境下における流体インジェク タによる超音速衝突噴流の制御	2023/9/1～ 2023/12/17 108 日間
11	サラマンカ大学 （スペイン）	ロボティクス&デザイン工学研究科 ロボティクス&デザイン工学専攻 小泉 允志	学生のセルフ・コンパッション向上 を支援するシステムの開発	2023/9/15～ 2023/11/18 65 日間
12	ハサヌディン大学 （インドネシア）	情報科学研究科 情報科学専攻 中島 颯太	ワタリガニ養殖におけるデジタルツ インシステムに関する研究	2023/12/2～ 2024/1/31 61 日間
13	国立清華大学 （台湾）	情報科学研究科 情報科学専攻 森田 耀仁	画像情報と埋め込み電極で計測した 神経信号を用いた動物の行動推定	2023/8/1～ 2023/12/15 137 日間
14	タマサート大学シリ ントーン国際工学部 （タイ）	情報科学研究科 情報科学専攻 ムハマド・ハフィシュ・デスタルキ	ICT や IMP を活用したメンタルヘル ス関連のデジタルヘルスケア技術の 研究	2023/10/1～ 2024/1/31 123 日間
15	ウプサラ大学 （スウェーデン）	情報科学研究科 情報科学専攻 山内 大輝	ドローンによるフォトグラメトリの 3D モデルの精度に関する研究	2023/10/2～ 2023/12/28 88 日間
16	アテネ国立工科大学 （ギリシャ）	工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 原田 茜	アテネ国立工科大学 都市空間の石造建造物および小動物 が地震時に受ける影響	2023/4/2～ 2023/7/1 91 日間

# STEP 4

## 6. 長期交換留学（派遣） Student Exchange Program (Outbound)

大阪工業大学の協定校で学生の交換条件を明記している大学、および本学が加盟している UMAP（アジア太平洋大学交流機構, University Mobility in Asia and the Pacific）の大学において、在学中に最長 1 年間、学費負担なしで留学するプログラムです。専門科目の授業履修や研究室インターンシップを主とするため STEP4 に分類していますが、語学学習（英語、韓国語、中国語等）を目的とした留学もできます。

2023 年度は、台湾の国立台北大学に 2 人、フィリピンのサンホセコレトス大学に 1 人、韓国の大田大学校に 2 人の計 5 人を派遣しました。

### 長期交換留学の派遣実績（2016～2023 年度）

年度	国/地域	機関	目的	所属 (開始時)	期間
2023	韓国	大田大学校	語学学習（韓国語） 後半は授業履修も	S 科 2 年 W 科 2 年	2024 年 3 月～2025 年 1 月 [約 11 カ月間] 予定
	フィリピン	サンホセコレトス大学	語学学習（英語） 後半は授業履修も	P 院 1 年	2024 年 3 月～2024 年 9 月 [約 7 カ月間] 予定
	台湾	国立台北科技大学	授業履修	P 院 1 年 (2 人)	2024 年 2 月～2025 年 2 月 [約 12 カ月間] 予定
2022	アメリカ	アンジェロ州立大学	語学学校・授業履修	IC 科 3 年	2022 年 8 月～2023 年 6 月 [約 10 カ月間]
2019	オーストリア	ウィーン工科大学	研究	工学研究科 A コース 1 年	2020 年 2～3 月 [約 2 カ月間] ※コロナの影響で途中帰国 (当初予定は 8 月上旬まで)
	台湾	南台科技大学 中国語センター	語学学習（中国語）	IS 科 3 年	2019 年 9 月～2020 年 1 月 [約 4 カ月間]
2017	フィンランド	タンペレ工科大学 (現タンペレ大学)	授業履修	U 科 3 年	2017 年 8 月～2018 年 5 月 [約 9 カ月間]
2016	フィンランド	タンペレ工科大学 (現タンペレ大学)	授業履修	A 科 4 年	2016 年 8 月～12 月 [約 5 カ月間]

※学科記号について

S：システムデザイン工学、W：空間デザイン、P：知的財産、IC：情報知能、A：建築、IS：情報システム、U：生命工学

## 学部・学科独自プログラム

これまで紹介したプログラムの他にも、学部や学科単位で独自に実施した国際交流プログラムがあります。オンラインで実施したワークショップなどすべてを紹介することはできませんが、主なものをこちらで紹介します。

### 海外建築・都市視察研修旅行

工学部建築学科

**開催期間** 2024年3月1日～3月9日（9日間）

**派遣先** ローマ、フィレンツェ、ヴェネツィア（イタリア）、バルセロナ（スペイン）

**参加学生数** 本学26人（学部生）



歴史的・文化的にすぐれた西欧の都市ならびに建築を中心に体験学習する機会を学生に与え、学習意欲向上を図ることを目的に隔年実施しています。参加学生からは「本物に触れる体験がたくさんできた。中でも建築、美術、言語の3つには心が動かされ、本やweb上で得ていた多少の知識とは比べ物にならないくらいの感動を覚えた」との感想がありました。

### ヨーロッパ建築都市&デザイン研修

ロボティクス&デザイン工学部全学科

**開催期間** 2023年6月28日～7月7日（10日間）

**派遣先** パリ・ヴァル・ドゥ・セヌ国立高等建築学校、他（フランス）

**参加学生数** 本学18人



ヨーロッパの空間デザインに関する古代から現代までの実例が見られるパリを訪れ、都市、建築、デザインの収集を行いました。前半では主にローマ時代の遺跡、絶対王政期の宮殿そして19世紀の駅舎といった歴史的な意味の深い建物をリノベーションやコンバージョンを通して現代の生活に活かした実例をリサーチ。後半は建築界の巨匠ル・コルビュジェが設計したサヴォワ邸に加えて、同時代に避難民の簡易宿泊所へとリノベーションされ、現在再リノベーションが計画されているコンクリート船アジュールフロタンを見学。歴史的、環境的な背景を理解した上で学生によるリノベーションを提案しました。最終日にはフランスの建築学校、ヴァル・デ・セヌを訪れ卒業設計発表会を公聴、教員を交えて議論を行いました。

## Intellectual Property Studies (Summer Intensive)

知的財産学部

**開催期間** 2023年8月28日～9月2日（6日間）

**参加機関** 国立高雄科技大学、国立台北科技大学、  
国立雲林科技大学、世新大学（すべて台湾）

**参加学生数** 本学10人、台湾24人

20年後の知的財産制度をテーマに、宇宙、AI、SDGs、ヘルスケアに関わる知的財産問題の講義と大学を越えた混成のグループによる討論と発表を行い、国際的な知的財産問題についての先進的な検討を行い、学生間の交流も進みました。



## 米国インターンシッププログラム

知的財産学部

**開催期間** 2024年2月19日～2月24日（6日間）

**派遣先** 海外企業の日本拠点、国際ビジネスに携わる日本企業

**参加学生数** 本学8人

海外企業の日本拠点、国際ビジネスに携わる日本企業に訪問し、国際知的財産分野の専門家からの講義と議論を通じて、米国がリードしている先進的な知的財産ビジネス事例を学びました。



## 台湾春季集中講座

知的財産学部

**開催期間** 2024年3月11日～3月16日

**派遣先** 国立高雄科技大学、国立台北科技大学、  
台湾・台北市内の政府機関および事務所

**参加学生数** 本学4人

経済的な結びつきが強まっている台湾において、高雄科技大学研究所と台北科技大学智慧財産研究所が主催する講義と議論を通じて、知的財産分野における国際交流についての貴重な経験を得ました。



# キャンパスでの国際交流

## 交換留学生受入 Student Exchange Program (Inbound)

本学では、交流協定を締結している海外の大学および UMAP（アジア太平洋大学交流機構、University Mobility in Asia and the Pacific）の加盟大学からの学生を、最長1年間、学費負担なしで受け入れています。

交換留学生の受入は、留学生自身が専門性を高め、異文化理解を深めるだけでなく、本学学生にとっても海外学生との交流を通じ、将来グローバルに活動していく上で有益な経験を得られる場となります。

2023年度は11大学から19人の交換留学生を受け入れ、指導教員の研究室に所属する109人の学生が協力学生として交換留学生と交流しました。

No.	協定校	国籍	目的	受入学部・学科/研究科	受入期間	協力学生数
1	タンベレ大学	フィンランド	研究	情報科学研究科	2023年4月-9月（半年）	6
2	HAWK 応用科学芸術大学	ドイツ	授業履修	工学部 建築学科	4月~9月（5か月）	13
3	ミュンヘン工科大学	メキシコ	研究	工学部 環境工学科	2023年4月-8月（4カ月半）	3
4	国立中興大学	台湾	授業履修	知的財産研究科	2023年4月-8月（5カ月）	3
5	国立中興大学	台湾	授業履修	知的財産研究科	2023年4月-8月（5カ月）	3
6	国立台北科技大学	台湾	授業履修	知的財産研究科	2023年4月-8月（5カ月）	
7	モンペリエ大学ポリテクモンペリエ	フランス	インターンシップ	工学研究科 電気電子・機械工学専攻	2023年4月-6月（2カ月）	
8	モンペリエ大学ポリテクモンペリエ	フランス	インターンシップ	工学研究科 電気電子・機械工学専攻	2023年4月-6月（2カ月）	
9	モンペリエ大学ポリテクモンペリエ	フランス	インターンシップ	工学研究科 電気電子・機械工学専攻	2023年4月-6月（2カ月）	
10	国立陽明交通大学	台湾	研究	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻	2023年6月-9月（約3カ月）	7
11	国立陽明交通大学	台湾	研究	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻	2023年6月-9月（約3カ月）	4
12	国立中興大学	台湾	授業履修	知的財産研究科	2023年9月-2024年2月（5カ月）	3
13	国立台北科技大学	台湾	インターンシップ	ロボティクス&デザイン工学部 空間デザイン学科	2023年9月-2024年2月（5カ月半）	2
14	国立台北科技大学	台湾	研究	知的財産学部	2023年9月-2024年2月（5カ月半）	2
15	国立雲林科技大学	台湾	授業履修/研究	工学研究科 電気電子・機械工学専攻	2023年9月-2024年8月（予定）（1年）	11
16	国立雲林科技大学	台湾	授業履修	工学研究科 電気電子・機械工学専攻	2023年9月-2024年8月（予定）（1年）	19
17	ウィーン工科大学	オーストリア	研究	情報科学研究科	2023年9月-2024年2月（5カ月）	8
18	UMAP（バハカリフォルニア自治大学）	メキシコ	研究	情報科学研究科	2023年9月-2024年8月（予定）（1年）	10
19	国立台湾科技大学	台湾	研究	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻	2024年3月-7月（予定）（5カ月）	3

## 留学生との交流 International Exchange on Campus

### 国際友好部

国際交流を通じてグローバル人になることを目標とし、交換留学生のサポートや交流イベントを企画・運営しています。交換留学生歓送迎会や、季節ごとのイベントや校外研修も実施しています。

2023年度は以下のイベントを実施しました。

- ・ 4月26日：交換留学生歓送迎会（春セメスター）
- ・ 5月14日：たこ焼きづくり体験
- ・ 6月10日：清水寺散策
- ・ 7月27日：サマーパーティー（春セメスター交換留学生送別会）
- ・ 10月31日：ハロウィーンパーティー（秋セメスター交換留学生歓送迎会）
- ・ 11月18日：和歌山方面散策&酒造見学
- ・ 12月12日：クリスマスパーティー

#### ▶ 交換留学生歓送迎イベント



#### ▶ たこ焼き作り体験



#### ▶ 清水寺散策



#### ▶ 季節のイベント



# 大阪工業大学 海外交流協定締結機関一覧

本学では 2024 年 3 月末までに世界の 28 か国 79 機関と交流協定を締結しています。



## アジア

国・地域	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
中国	同济大学	Tongji University	1992 年 11 月	学術交流および友好協力関係に関する覚書
	清華大学	Tsinghua University	2010 年 2 月	学生交流に関する覚書
	浙江省寧波市国際人材交流協会	Ningbo, China	1993 年 12 月	科学技術と教育における交流促進に関する覚書
	華東理工大学	East China University of Science and Technology	2008 年 9 月	環境問題を中心とした改善に関する協定
	浙江大学	Zhejiang University	2017 年 3 月 2022 年 6 月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	北京科技大学	University of Science and Technology Beijing	2016 年 5 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 (工学部)
	香港伍倫貢學院	UOW College Hong Kong	2020 年 1 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	南京工業大学	Nanjing Tech University	2023 年 3 月 2023 年 3 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定 (本学は情報科学部に限定)
韓国	大田大学校	Daejeon University	2023 年 11 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	国民大学校	Kookmin University	2023 年 11 月	学生交換の促進に関する協定
	仁済大学校	Inje University	1994 年 7 月	科学技術と教育における交流促進に関する覚書
	中央大学校	Chung-Ang University	2014 年 3 月	学生交流に関する協議書
台湾	国立虎尾科技大学	National Formosa University	2017 年 1 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	国立雲林科技大学	National Yunlin University of Science and Technology	2007 年 1 月	学術文化交流および友好協力関係に関する覚書
	世新大学	Shih Hsin University	2007 年 2 月 2020 年 2 月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	国立高雄科技大学	National Kaohsiung University of Science and Technology	2020 年 2 月	学生交換の促進に関する協定
	国立台北科技大学	National Taipei University of Technology	2009 年 3 月	学術文化交流および友好協力関係に関する覚書
	国立台湾科技大学	National Taiwan University of Science and Technology	2009 年 6 月 2019 年 3 月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	国立清華大学	National Tsing Hua University	2012 年 3 月	連携と学術交流に関する覚書
	南台科技大学	Southern Taiwan University of Science and Technology	2017 年 3 月	学生交換に関する協定
	大同大学	Tatung University	2013 年 10 月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書
	台湾經濟部	The Ministry of Economic Affairs, Taiwan (MOEA)	2014 年 9 月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書
	国立中興大学	National Chung Hsing University	2014 年 9 月	学生交換の促進に関する協定
	国立陽明交通大学	National Yang Ming Chiao Tung University	2016 年 1 月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書
			2016 年 1 月	学生交換の促進に関する協定
			2016 年 9 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
		2019 年 1 月	学生交換の促進に関する協定	
		2020 年 2 月	就職支援に関する覚書	
		2020 年 9 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書	
		2020 年 9 月	学生交換の促進に関する協定	
		2023 年 2 月	教育、研究、専門的活動に関する両大学の国際理解と協力関係の促進に関する覚書	

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
モンゴル	モンゴル工業技術大学	Institute of Engineering and Technology	2019年12月 2023年2月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	モンゴルコーセン技術カレッジ	Mongol Koosen College of Technology	2023年2月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
フィリピン	サンホセレコレトス大学	University of San Jose-Recoletos	2020年1月 2022年11月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2022年11月	学生交換の促進に関する協定書(ESLとコンピューター分野対象)
インドネシア	パラカラヤ大学	Palangka Raya University	2015年5月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書
	ウィドヤ・マンダラ・カトリック大学スラバヤ	Widya Mandala Catholic University Surabaya	2017年4月 2022年6月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	ムラワルマン大学	Mulawarman University	2018年1月 2023年1月延長	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	バクリ大学	Bakrie University	2018年4月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	ハサヌディン大学	Hasanuddin University	2020年10月 2020年10月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
マレーシア	マレーシア工科大学	Universiti Teknologi Malaysia	2013年5月 2019年9月更新	教育・研究・社会貢献における交流と連携、関係強化に関する覚書
	マレーシアサバ大学	Universiti Malaysia Sabah	2018年11月	教育・研究・社会貢献における交流と連携の推進と関係強化に関する覚書
	ペトロナス工科大学	Universiti Teknologi PETRONAS	2019年7月 2019年7月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
	マレーシアサイエンス大学	University of Science Malaysia	2023年6月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
シンガポール	シンガポール工科デザイン大学	Singapore University of Technology and Design	2022年10月	教育・研究分野での協力と交流の発展に関する覚書
タイ	泰日工業大学	Thai-Nichi Institute of Technology	2009年2月	短期学生交換に関する協定
	タマサート大学シリントーン国際工学部	Sirindhorn International Institute of Technology - Thammasat University	2009年6月 2014年6月更新 2023年4月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2023年4月	学生交換の促進に関する協定
			2021年7月	教育と研究における協力と交流の発展に関する覚書
	チュラーロンコーン大学	Chulalongkorn University	2022年10月	教育と研究における協力と交流の発展に関する覚書
	ラジャマンガラ工科大学 タンヤブリ校	Rajamangala University of Technology Thanyaburi	2023年6月	交流および共同プログラム設立のための連携発展に関する覚書(理工学分野のみ)
タマサート大学	Thammasat University	2023年6月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書	
ベトナム	ダナン工科大学	University of Science and Technology - The University of Danang	2016年3月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	カントー大学	Can Tho University	2019年11月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
インド	マニパル大学	Manipal Academy of Higher Education	2017年11月 2023年2月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2017年11月	学生交換の促進に関する協定
			2023年2月更新	

## オセアニア

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
オーストラリア	クイーンズランド工科大学	Queensland University of Technology	2009年3月	QUT が提供する学習プログラム(短期語学研修)に関する協定
	スウィンバン工科大学	Swinburne University of Technology	2015年6月	学術および教育事業(語学研修)における連携に関する協定

## 北米

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
アメリカ	サンノゼ州立大学	San Jose State University	1997年5月 2000年5月改正	学術交流および友好協力関係に関する覚書(短期語学研修)
	ライス大学	Rice University	2010年2月 2015年6月更新 2020年7月延長	直接的な交流と連携の推進に関する覚書
	アンジェロ州立大学	Angelo State University	2015年4月	学生交換、学術交流に関する協定
	クレムソン大学	Clemson University	2016年8月	国際教育、研究、サービス、およびその他の関連活動における相互協力に関する覚書
	ジョージア工科大学	Georgia Institute of Technology	2018年6月	研究および教育分野における連携に関する協定
	ネバダ大学リノ校	University of Nevada, Reno	2022年4月	学術分野の連携強化、学術協力の促進に関する覚書
	サンフランシスコ州立大学	San Francisco State University	2023年2月	学生、教職員のための教育・研究協力を強化するためのあらゆる可能性の検討に関する覚書
カナダ	OCAD 大学	OCAD University	2022年5月	国際・異文化理解と学術交流促進のための基盤提供と共同学術活動の発展・実施に関する覚書

中南米

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
メキシコ	グアナファト大学	The University of Guanajuato	2019年10月	学術活動の推進と国際的視野の獲得に関する覚書
			2019年10月	学生交換の促進に関する協定

ヨーロッパ

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
フィンランド	タンペレ大学	Tampere University	2014年2月 2020年12月更新	学術連携に関する協定（建築分野を除く）
スウェーデン	ウプサラ大学	Uppsala University	2018年5月 2023年5月更新	教育と研究における交流と連携の発展に関する覚書（ゲームデザイン分野対象）
			2019年9月	学生交換の促進に関する協定（ゲームデザイン分野対象）
ノルウェー	スタヴァンゲル大学	University of Stavanger	2020年7月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書（理工学分野のみ）
			2020年7月	学生交換の促進に関する協定書（理工学分野のみ）
ポーランド	ヴロツワフ工科大学	Wroclaw University of Science and Technology	2016年3月 2021年3月更新	研究と教育分野における連携発展に関する協定
オランダ	デルフト工科大学	Delft University of Technology	2016年6月 2022年5月更新	工学教育および科学研究における連携促進に関する覚書（航空宇宙工学分野のみ）
	アイントホーフェン工科大学	Eindhoven University of Technology	2022年7月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書（電気工学分野のみ）
ドイツ	ヴッパータール大学	University of Wuppertal	2010年3月 2013年3月更新 2018年3月更新 2023年3月延長	教育と科学の連携に関する協定
			2018年3月 2023年3月延長	学生交換の連携に関する補足的協定
	ミュンヘン工科大学	Technical University of Munich	2009年12月 2015年2月更新 2020年10月更新	学術連携と交流に関する覚書
			2020年10月	学生交換に関する協定（土壌環境分野のみ）
ミュンヘン防衛大学	University of the Bundeswehr Munich	2009年12月 2015年2月更新 2020年7月更新	研究と高等教育における連携拡大に関する覚書	
		2020年7月	学生交換に関する協定	
		2021年3月	教育と研究における協力と交流の発展に関する覚書（建築土木分野のみ）	
HAWK 応用科学芸術大学	HAWK University of Applied Sciences and Arts	2021年3月 2024年1月	学生交換の促進に関する協定（建築土木分野のみ） 学生交換の促進に関する協定（デザイン分野のみ）	
		2024年1月	学生交換の促進に関する協定（デザイン分野のみ）	
オーストリア	ウィーン工科大学	TU Wien	2013年5月 2018年4月更新 2023年3月延長	研究協力と教育交流の発展に関する協定
スイス	スイス北西部応用科学芸術大学	FHNW University of Applied Sciences and Arts Northwestern Switzerland	2024年1月	学生および教職員交換の協力に関する協定
フランス	パリ・デジタルイノベーション大学院	EPITECH (Ecole pour l'informatique et les nouvelles technologies)	2019年11月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	ボルドー大学	University of Bordeaux	2020年12月	国際連携のための基本的合意
	モンペリエ大学	University of Montpellier	2020年12月	学生交換に関する協定
	ポリテクモンペリエ	Polytech Montpellier	2023年2月	学術交流と教育・研究における協力関係の促進に関する覚書
	ENTPE	Graduate School of Civil, Environmental and Urban Engineering	2024年1月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
スペイン	サラマンカ大学	University of Salamanca	2013年5月 2021年10月更新	国際的な大学間協力に関する基本合意
	マドリード工科大学	Technical University of Madrid	2015年6月 2020年6月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2020年6月	学生交換の促進に関する協定

中東

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
トルコ	オジェギン大学	Ozyegin University	2023年12月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2023年12月	学生交換の促進に関する協定
サウジアラビア	キング・アブドゥルアズィーズ大学	King Abdulaziz University	2014年9月	連携分野における学生・教員・研究者の交流に関する覚書

アフリカ

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
セネガル	ジガンシヨール大学	Assane Seck University of Ziguinchor	2023年2月	研修、研究、技術革新、地域社会への奉仕、知識および文化の普及に関する枠組み協定

## 大阪工業大学のグローバル学習支援（2024年度）

対象プログラム	支援内容
語学研修 海外大学提供プログラム 大学が認定した留学プログラム等	派遣型：5万円 オンライン型：1万円
国際PBL	渡航費・プログラム費の大半を大学が負担 学生の参加費 東アジア：最大5.4万円、東南アジア：最大8万円
海外研究支援制度	渡航費の実費相当（国・地域ごとに上限あり） JASSO奨学金（月額6～10万円）または1日1500円的生活費支援
長期交換留学	渡航費の実費相当（国・地域ごとに上限あり） JASSO奨学金（月額6～10万円）

### 大阪工業大学 国際交流センター OIT International Center

海外協定校等から交換留学生を受入れ、本学学生との交流機会を設けています。

留学に関する相談を受け付けていますので、気軽にお越しください！

オンラインでの相談も可能です！

[場 所] 大宮キャンパス Chast1階 [E-mail] OIT.Kokusai@josho.ac.jp

[開室時間] 月曜～金曜 9:00～17:00 [電話番号] 06-6954-4935

（土曜は行事および事前予約の場合を除き閉室。メール対応のみ）

#### オンライン個別相談

留学や国際交流に関する相談が可能です！  
下記QRコードから予約をしてください。



#### 参加学生のレポート

留学に参加した学生にレポートが閲覧できます。  
OITアカウントでのログインが必要です。



大学 WEB サイト



Instagram @oit.kokusai



Twitter @OIT\_INTL



LINE @959vzyhe

### ランゲージ・ラーニング・センター (LLC) Language Learning Center

#### 英語学習のための「英語空間」！スタッフは国際色豊かでフレンドリー

コンサルテーション・ルームで先生と会話練習や、自分にあった英語学習プランのアドバイスを受けることができます。英語学習教材、映画DVD、ゲーム、雑誌などの利用もできます。

3階には女性専用のパウダールームもあり、女子学生にも利用しやすくなっています。

[場 所] 大宮キャンパス Chast（受付2階）

※梅田・枚方キャンパス向けのサービスもあります。

[開室時間] 授業期間中の月曜～金曜 9:00～19:00



ウェブサイト



編集・発行 大阪工業大学 国際交流センター 2024年4月30日

〒535-8585 大阪市旭区大宮 5丁目16番地1号

TEL (06)6954-4935

Website: <http://www.oit.ac.jp/japanese/international/>